

背景・課題

鳥取県内の有機・特別栽培農産物の栽培面積は減少傾向にあるため、より多くの生産者が取り組める技術の開発や新しい資材の現地適応性を実証し、県内生産者へ広く普及させることが課題。そのため、県全体を一地区として設定し、複数品目において実証試験を全県下で行うとともに、産地の取組を紹介するポスターやリーフレットを作成し、イベント開催時等に消費者へ向けた情報発信を行う。

成果目標と達成状況

- 水稲：プラスチックレス肥料の活用による農業用プラスチック排出量削減、鶏糞活用及びドローン空撮による地力の高低を示したマップの作成による化学肥料低減、可変施肥機能付ブロードキャスター使用による作業時間削減
- 日本なし：有機質肥料の活用による化学肥料低減
- すいか、いちご、スイートコーン：生分解性ポット等の活用による農業用プラスチック排出量削減
- にんじん：マルチ被覆の太陽熱処理による除草剤低減

取組の成果

- ・スイートコーンについては令和4年度に実証試験が完了し、生分解性マルチ使用による生育への影響は見られず、農業用プラスチック及び作業工程の削減を確認し、令和5年度の栽培マニュアルに反映した。
- ・他品目については令和4～6年度の複数年にかけて栽培技術の実証を行っているところだが、現時点では特に問題がなく、実用化が可能と見られる。



●ドローン空撮による
化学肥料低減の実証（水稲）



●生分解性マルチと通常の透明マルチの比較試験の様子
（スイートコーン）

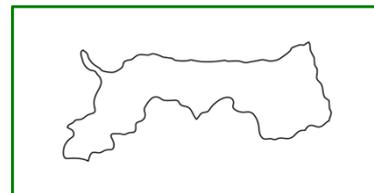
普及に向けた取組

令和4～6年度の実証技術の結果を踏まえ、令和6年度に「グリーンな栽培体系導入マニュアル」を作成し、生産者を対象とした講習会等の実施等により、普及組織とJAが連携して地域への普及・定着を図る予定。

鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会
（鳥取県農林水産部農業振興局生産振興課内）

問い合わせ先

TEL：0857-26-7281



構成員

鳥取県、JA鳥取県中央会、JA全農とっとり、JA鳥取いなば、JA鳥取中央、JA鳥取西部

品目

水稲、果樹（日本なし）、施設野菜（すいか、いちご）、露地野菜（スイートコーン、にんじん等）